



町長 新ひだか 芳秀
新ひだか 芳秀

町民の皆様、新年明けましておめでとうございます。

希望に満ち溢れた輝かしい平成二十二年の新春をご家族おそろいで健やかに迎えのことからお慶び申し上げますとともに、日頃から町政執行に對しましてご理解と協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、本町にとっては幸いにも大きな災害もなく比較的平穏な一年であったと思えます。国内経済はリーマンショック以降の世界同時不況による金融危機の影響を脱し緩やかな回復傾向が見えましたが、年末の「ドバイ・ショック」による急激な円高により経済混乱が再燃しかねない状況であります。北海道では依然として厳しい経済状況が続いており、本町におきましても、住民生活はもとより、産業や経済活動に大きな打撃を受けております。

このような中で、町としても不振にあえぐ町内経済の活性化を目的に、二年連続となる地域商品券の発行や公共事業の発注などの臨時的経済対策を実施したほか、消費

の拡大と地域経済の活性化を図るための取り組みを進めてまいりましたが、国際的にも国内的にも景気回復の先行きが見えない一年となりました。

本町の基幹産業でもあります一次産業については、農業において水稲が夏場の天候不順の影響から当初計画を下回ったのをはじめ、花き生産も出荷本数の減少に加え、単価の低迷により出荷額が前年を下回っております。また、新ひだかブランドとして定着している黒毛和牛「みついし牛」も市場価格が低迷しておりますが、ミニトマトは堅調に推移したことから前年並みの水準を維持することができました。

一方、漁業では、漁獲量でタコ・スケトウダラが前年を下回ったものの、主要魚種でありますサケ・イカ・コンブを始め、その他の魚種においても前年を上回っており、全体では約三割の増産となったことは喜ばしいことではあります。漁獲量の増に伴う魚価安により生産額は、ほぼ前年と同額にとどまりました。

軽種馬産業は、国内景気が低迷する中で「北海道市場」における売上総額・売却率ともに前年を上回る健闘を見せております。本町生産馬の活躍は素晴らしく、五月のヴィクトリアマイル、二連覇を果たした六月の安田記念、日本牝馬初となる十一月の

ジャパンカップを制したウオッカ号は、G1タイトル七冠を獲得し、牝馬としては史上最多の記録を達成し、名実ともに「最強牝馬」「女帝」の称号にふさわしい活躍をみせてくれたのははじめ、十月の菊花賞を制したスリーロールズ号など、多くの町民に夢と感動を与えてくれたほか、七月には「第四十三回全日本高等学校馬術競技大会」の団体障害飛越競技で、静内農業高校馬術部が悲願の全国優勝を果たし、町に明るい話題を提供してくれました。

さらに、正念場を向かえておりますホットカイドウ競馬も、昨年から門別競馬場を主会場にナイター競馬を開催しておりますが、支援のため本町独自に無料応援バスを運行し、好評を得たところです。今後も、産地競馬の魅力を最大限に活用し、集客増や売上増への支援をまいります。

歴史的な政権交代を果たした新政権は、地方の多様な価値観や地域の個性に根ざした豊かさを実現する住民本位の分権型社会への抜本的な転換をはかり、地方自治体を「地方政府」と呼ぶにふさわしい存在にまで高めることを、地方分権改革の究極の目標に掲げ、地域の自由と自給力を高める地域主権型社会の構築を目指しております。

ミニトマト五億六千万円、酪農五億円、米三億円の生産額でありました。また、静内農業高校馬術部が「第四十三回全日本高等学校馬術競技大会」団体の部に出場し全国制覇、本町生産馬のウオッカ号が、第二十九回ジャパンカップ（G1）レースに出場し、世界の強豪を相手に優勝し、牝馬でG1七勝の最多勝タイの成績で本町のPRをし、それに加えて日本観光協会より、二十間道路桜並木が「第11回花の観光地づくり大賞」に輝く明るいニュースもありました。

新年度においても三年振りにデフレスバイラルといわれ、物価安となり長期的な景気低迷が予測され、先行きが不透明で深刻な状況にあります。本町も少子高齢化に加え人口減少が進行し、地域産業低迷、雇用も悪化しています。そのため、本町独自の政策に取り組んでいく必要があります。農・畜・林・水産業などの第一産業の振興なくして本町の発展はないのです。

地域産業再生のために予算を増額し、町職員に専門人材の養成を図り、新事業の遂行に努め、その結果として町税収を上げ雇用を確保します。それに並行して新規就業や定住促進事業を推進し、若者が夢と希望をもてる魅力あるまちづくりをする大切

明けて新ひだか町も誕生から五年目となりますが、政府の地方分権改革や多様化する町民ニーズに対応し、まちづくりの基盤を築くため、合併以来、全力で取り組んできました。財政健全化と行財政改革も、徐々にではありますがその効果も見え始めており、改革の道は未だ半ばとはいえず、優先的な課題に対処していくなど、将来に展望が開けてまいりましたことから、目高の中枢都市として、さらなる融和と一体の精神のもと、職員共々一丸となって邁進する所存でございます。

三つのCH、すなわちチェンジ、チャンス、チャレンジを念頭に、まちの将来像として策定しました総合計画を基本に据え、町民の一人ひとりが町政の主役として、まちづくりに参画し、町民誰もが心豊かに、いきいきと暮らし、誇りが持てる「まちづくり」に全力で取り組むことを、新春にあたり心新たに決意しているところでございます。

最後になりますが、町民の皆様にはより一層のご理解とご協力をお願い申し上げますとともに、本年もご家族皆様のご多幸を心からお祈り申し上げます。年頭のご挨拶いたします。

新年度であると考えます。新政権が誕生し、地域主体、即ち地域づくりが本格的に動き出すとされています。そこで、議会としても各議員の行政監視（チェック）機能強化はもとより、積極的政策提言を図るため、各専門常任委員会の所管事務調査を行い、政策提言に努めます。

議会改革として、議員定数削減（四人減）、政務調査費・町内目当廃止、町外目当・宿泊費の削減、更に議員報酬については、特別職報酬等審議会に委ねたいと考えているところです。

なお、町民の皆様には議会の説明責任を果たすための出前講座や議会報告会、議会広報の充実等、先進地議会事例を参考にし「開かれた議会」活動に努め、町民の皆様が目線で諸課題解決に答えるべく努力していく所存です。

新春の優勝浪漫街道に若駒が駆け、遠くに望む自銀に輝く目高山脈を背に「新ひだか町」の益々の発展と町民皆様のご健勝を祈念し、ご挨拶いたします。



新ひだか町議会議長 中島 滋

謹賀新年平成22年

あけましておめでとうございます

管内の課題として目高支庁制度再編改革、北海道競馬の本町独自支援（目標比98%）、新型インフルエンザ感染拡大防止等に努めてまいりました。更に本町の基幹産業である軽種馬セリ市場は、例年より平均価格は低迷、総売上額増、売却率は上昇、生産額は四十億円となりました。肉用牛九億円、花き六億円、